

「女性医師への支援に関する意向調査」結果について(概要)

- 1 目的 女性医師に対して、就労継続や復職に必要な支援体制等への意向を調査し、女性医師等が働きやすい環境づくりを図るための基礎資料とする。
- 2 調査対象 道内に在住する女性医師 (アンケート配付数1,599部)
- 3 調査時点 平成26年12月31日現在
- 4 回答者数 480名(回収率30.0%)

5 調査結果概要

(1)回答者の状況

- 30～34歳、35～39歳、40～44歳がそれぞれ約100名で全体の約60%【問1】
- 勤務先は大学、自治体立(公的含む)、民間でほぼ均等【問2】
- 従事する診療科が多かったのは小児科9.9%、内科9.2%、麻酔科8.4%、精神科7.7%、皮膚科7.1%、眼科6.7%、産婦人科6.0%、循環器内科5.6%【問3】
- 専門医は研修中含めると約80%の医師が取得【問4】
- 元気なうちは働き続けたいと考えている医師は71%【問5】
- 配偶者が医師の者が70%【問6】
- 子どもをもつ医師が59%【問7】

(2)就労環境

- 現在の勤務形態は80%の医師が常勤(フルタイム)【問8】
- 望ましいと思う勤務形態は66%が常勤(フルタイム)【問9】
- 現在の勤務環境は57%が満足、満足していない医師は18%【問10、11】
 - 満足している理由(複数回答)で多かったのは、「勤務形態や休暇制度」25.8%、「労働時間(業務量)」24.1%、「職場(上司や同僚)の理解」20.6%
 - 満足していない理由(複数回答)で多かったのは「勤務形態や休暇制度」21.3%、「労働時間(業務量)」25.4%
 - 勤務環境の満足度はいずれも「勤務形態や休暇制度」、「労働時間(業務量)」が大きな割合を占め、満足している環境には「職場(上司や同僚)の理解」も大きな要素となっている。

- 勤務条件の緩和等、両立支援に対し、職場の理解が醸成されるためには、「職場全体の過重労働の縮減」35.8%、「明確なルールでの運用による不公平感をなくすことが必要」(33.0%)、「フルタイムで働けない医師をカバーする医師への給与等配慮」(20.1%)【問12】

(3) 復職支援

- 離職(休職)経験者は51%【問13】

離職(休職)期間は「7ヶ月から1年」25.0%と最も多く、「1年～2年未満」20.1%、「4ヶ月～6ヶ月」19.7%、「1ヶ月～3ヶ月」18.4%となっており、1年未満の期間を合計すると63.2%。離職(休職)した理由は「出産・育児」が74%と最も多い。復職は同じ病院に復帰が56%となっており、その多くは「待遇についての理解があったから」を理由としている。

- 復職研修で良いと思う形態(複数回答)は「休職後、最新の医療知識の講習等、短期間での研修」29.7%、「指導医のもとで、OJT をメインとした研修」25.7%、「休職中に無理のない程度の自宅外での研修」25.1%である。
また、必要とする研修期間で最も多いのは「1～3ヶ月」40～50%【問14】

- 復職研修受講者増えると思う取組(複数回答)は「復職研修中の育児サポート」50.3%、「研修中の身分保障(正職員としての雇用等)」17.8%【問15】
育児サポートで必要とするのは(複数回答)「院内での病児預かりサービス」36.7%、「院内保育所の設置」31.3%、「24時間保育の実施」8.2%となっており、院内での育児サポートの必要性が多くを占めている。

(4) 相談体制

- 日頃感じている悩み(複数回答)は「仕事と家族の両立が難しい」24.7%、「特にない」22.4%、「勉強する時間や学会に参加する時間がない」20.6%【問16】
- どこに相談窓口があると良いかは「勤務先の病院」66.1%、「所属している講座のある大学」15.3%、「医師会」12.2%【問17】
- 相談窓口で対応してもらいたいこと(複数回答)は「勤務形態」49.0%、「産休や育休制度」15.3%、「保育所についての情報提供」14.6%【問18】
- 医育大学、道医師会での相談窓口、復職研修を「知っている」35%【問19】
- 医学関連の情報収集の方法(複数回答)は「学会誌」47.2%、「日経メディカル」22.4%、「北海道医師会報・道医師会ホームページ」10.9%【問20】